

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立美原北小学校
校長 北林 康男

中学校区におけるめざす子ども像 仲間とともに学びに向かえる子

令和6年度 重点目標 『自立・自律した子の育成』 ・子どもが自ら考え、学びを深め合う授業づくり～対話を通した学び合い～ ・人とつながる優しい北っ子を育てよう ・運動を楽しむことができる児童を育てよう

「確かな学び」の現状 ・自分の考えを書くことができる児童が多く、授業の際や自主学習などでは積極的に取り組むようになっている。その考えた内容を自分の言葉でペア・班活動の中で伝えることができるようになっている。話し合い活動の中で自分の意見を伝えるだけでなく、他者の意見に対して聞こうとする姿勢も見られている。また、めあてを意識して学習活動・ふりかえりを書くことができている。 ・一方基礎学力の定着に時間がかかる児童が多い。また、話し合い活動では、自分の書いたものを話すだけで終わっている児童も多い。受け答えや他者の意見から違う意見を考えたり、その発言に対しての自分の考えを伝えたりすることなどはできていない児童が多いので、今後の取組が必要である。	「豊かな心・健やかな体」の現状 ・人との関わりに対する意欲や意識の向上がみられた。また、学級一学年一他学年と、児童の視野も広がりがつつある。特活や道徳等の授業とのリンクも意識して行うことができている。一方、他学年との交流が希薄なところもあり、機会を確保していく必要がある。児童の自立に向けて児童の主体的な活動を支えるアプローチを指導者が行っていく必要がある。 ・体育アンケートの結果から、体育の授業や運動が好きという児童は多いが、一昨年度に比べると減少していることが分かった。安全面においては、体育の時間中に起きた怪我が多かったので、今まで以上に安全面の指導が必要である。
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	・「子ども自ら考え、学びを深めあう授業作り」をめざす。 ・基礎学力を定着させるため教員の指導力向上をはかる。	・カリキュラムマネジメント表を作成し、各学年国語科・算数科に重点を置き、実践する。 ・各教科の学習から表現力を向上させるために「対話」を通した取組を行う。	・校内研究授業・公開授業	状態について協議	毎学期	○ 新しいカリキュラムマネジメント表を確認しながら、各学年、夏季研修や研究授業の準備などで授業改善を計画的に行っている。研究授業の授業者以外の教員も公開授業を計画的に行っている。	○ 教科書の変更があったが、年度当初のカリキュラムマネジメント表を作成することにより、年間を通して見通しをもって指導を行うことができた。授業においても、「対話」を意識して行っていき、児童同士の話し合いからの学習の深め合いに重点を置くことにより、ふりかえりを書くことや話を伝える・聞くに関して肯定的な意見が8割をこえることができた。(児童アンケートより)学習内容によって話し合いの形態を変えて学習しやすいように教員が創意工夫することができた。また、夏季研修などで話し合い活動の効果的な取り組みなどを確認して取り組んだ。	○ 座席の工夫も含めて取り組めている。学級を参観してきたが、みんな和やかに話し合いを進めることができていると感じる。クラスの空気も和やかであったと感じる。今後もペアやグループ学習を継続して取り組んでほしい。
			●ふりかえりの質の向上をめざす。 ●わかりやすい板書づくりに取り組む。 ●話し合い活動の方法を精査していく。 ★ペアやグループ学習を通して、他者と学びあう授業に取り組む。	・校内研究授業・児童のノートの見取り ・ふりかえりの内容の語彙や表現 ・児童アンケートでの肯定的意見が8割	状態について協議 状態について協議 児童アンケート	毎学期 毎学期 年度末	○ 自分の考えを文章で表すことや、目的に合わせてペアやグループなど形を変えて表現活動を行っている。また、ふりかえりを書きやすくなるように書き出しの例を用意するなど取り組みやすいよう配慮している。学期末にアンケートの予定。	○	
	学習内容の定	・学習内容の定着をはかる。 ・家庭学習習慣の定着をめざす。	・めあてに対する「自分の考えを書く」活動を行い、言語化して表現する。 ・場面に合わせた話し合い活動やつぶやき欄等を活用し、考えを表現する手立てとする。 ★考えをまとめ、交流し伝えあい、協同的・探究的に学びを深めていく。	・校内研究授業・児童のノートの見取り ・「自分の考えを書く」表現活動 ・児童アンケートの考えのつぶやき欄についての項目で、肯定的意見が8割	状態についての協議 児童アンケート	毎学期 年度末	○ 児童が自分の考えに対し、理由やつぶやき欄を書くとともに、自分の意見を伝えるだけでなく、他の児童の考えを聞く機会を増やし、他者の考えを受け入れる活動も増えている。自分の考えを書く活動についてのアンケートを学期末に行う予定。	○ 「対話」をするために、自分の考えを伝える準備としてノートに自分の考えを書くことができた。ペアや班での話し合いを積極的に取り入れることで、自分の考えを伝える機会を増やし、児童一人ひとりが積極的に授業に参加することができた。「めあてを意識して	○ 家で自主学習をしている子どもの姿を見ると、めあてに対する自分の考えが書けており、ふりかえりもきっちりと身についていると感じている。 子どものノートを見ると、学習の足あとがよくわかるので、感心している。今後も板書や

	着		・自主学習ノートを活用する。学期ごとにノートオリンピックを開催し、児童の意欲喚起を行う。 ・タブレットの持ち帰り学習を行い、家庭での学習活動の補助を行う。	・ノートオリンピック ・保護者アンケートで「子どもは自主学習ノートを使い、自主学習に取り組んでいる」の肯定率の増加	状態について協議 学校診断アンケート	年度末	○	他学年の自主学習や教科の授業のノートを各クラス2人ずつ定期的に掲示している。様々なノートを見る機会を得ることで、苦手な児童は書き方を学び、得意な児童は掲載されるようにより一生懸命に取り組む姿勢が見られている。	○	いる」「考えを伝え合う」という項目は話す・聞く共に8割を超えている。(児童アンケートより) つぶやき欄に関しては、各学年・各教科に合わせて行う形を取り、自分の考えを表現する活動を十分に行った。 提示されたそれぞれの学年、教科、自主学習など様々なノートの書き方を見ることによって、参考にしたり、よりよいノートを意識して取り組むことができた。	○	ノート指導等を継続してほしい。
豊かな心・健やかな体	あたか い集 団 づ く り	「人とつながる優しい北っ子を育てる」 ・「優しい言葉遣い・優しい行動・ほめる活動」を増やす。 ※いじめ予防・防止の視点を含む	●「やさしさみつけ月間」を学期に1回行い、啓発運動・促進を図る。 (1年間掲示して、目に見える形として残す) ・児童会役員の放送などを通して、やさしさみつけのメッセージの内容の質の向上を図る。 (行動に対しての思いや感情を表現する) ・他クラスのやさしさの木をみくにいく時間の設定。	・児童の様子の見取り ・児童会アンケートの実施 「やさしさを見つけたか」	状態について協議 児童会アンケート	年度末	○	やさしさみつけ月間を行うことによって、児童は他の児童のやさしさに目を向けている様子がみえる。 児童会役員の放送などを通して、やさしさみつけのメッセージの内容の質の向上を図っている。	○	「やさしさを見つけたことができましたか」肯定意見94%(児童アンケートより) 年間を通して、学期ごとに「やさしさの木」を実施することで相手の優しい行動に目を向ける意識が高まった。また、児童会の放送で、他学年のメッセージを聞くことで、昨年度よりメッセージの内容の質が向上されていた。	○	異学年と交流することで、高学年の児童が成長できる場となっているのではないかと感じる。 学校安全委員会の取組により、校内での安全の注意喚起はできているのではないかと感じる。学校のルールを身につけることは必要なことである。 今後もこういった啓発活動を継続してほしい。
		・人との関わり・交流機会を設定する。	・北っ子活動・ペア学年交流など、学年をこえたたてわり活動を多く実践し、全校児童の関わるの機会を増やす。	・児童の様子の見取り ・児童会アンケートの実施 「児童会目標を達成できたか」 「他学年とつながることができたか」 「活動の達成感」「活動への所属感」 肯定的意見が9割以上	状態について協議 児童会アンケート	年度末	○	北っ子活動では、大縄大会を実施し、それに伴い休み時間にも練習を行うなど昨年度より学年をこえた活動が増えている。また、他学年との交流活動も各学年で年間を見通して計画的に行っている。	○	「児童会目標は達成できましたか」肯定意見91%(児童アンケートより) 「他の学年とつながることができましたか」肯定意見93%(児童アンケートより) 「北っ子活動は楽しみですか」肯定意見96%(児童アンケートより) 北っ子活動で大縄大会を実施したことや、他学年との交流を計画的に行ったことで、他学年の児童同士で関わる機会が増加した。そして、児童自身が他学年とつながっていると実感することができた。	○	1年生の児童を育てるのは高学年の児童だと思うので、学校として学年をこえたたてわり活動の取組を続けてほしい。そのために、北っ子活動は今後もさらに活発に取り組むことを期待する。
		・子ども主体の活動を促進する。	・委員会での常時活動を実施し、5、6年生が学校運営の役割を担い、自立できる活動を増やす。	・委員会活動での児童の日々の様子	状態について協議	年度末	○	今まで常時活動の少なかった委員会も、常時活動を行い、学校運営に携わっている。また、学校の実情に合わせた委員会が発足したことで、子どもたち自身で学校のために主体的に活動する姿がみえる。	○	全委員会が常時活動を行ったり、朝会で全校児童に活動の協力を呼びかけたりしている姿が昨年度より増加した。また、今年度から発足した「学校安全委員会」は、所属する児童が主体的に学校で安全に過ごせるために啓発している姿がみえた。	○	
	心身の健康の促進	・運動を楽しむことができる児童を育てる。 ・心身の健やかな成長を促進する。	●楽しい体育授業の実施のために、各領域について、主運動につながる運動資料を作成し楽しい体育授業をめざす。 ・多様な運動に触れ合う機会の増加のために、体力向上週間や教具の積極的な活用に取り組む。	・体力テスト ・児童の日々の様子 ・生活アンケート 肯定的意見の増加	体力テストの記録比較 状態について協議	年度末	○	体育委員会を中心に、鉄棒ビンゴやおにごっこなどを通して、他学年との交流を積極的に取り入れることができた。 体育授業に取り組むうえで、体育館側面に技等の掲示物を準備し、いつでも活用できるようにしている。 体育のアンケート、もしくはスポーツテストの結果から、児童の体育や運動への意識、体力向上のデータをみとる予定。	○	年2回の体育アンケートの結果より、体育の授業が好きと答えた児童が87%と、スポーツテストも意欲的に取り組むことができていた。また、休み時間には男女問わずたくさんの児童が外で遊んだり、委員会活動を行うことで、特に低学年児童の外遊びを促すことができた。 病院搬送件数は、R4が75件、R5が53件、R6が42件(3月6日現在)となっており、	○	暑さの関係で体育の授業ができないことが多いと聞いているので、今後体育の授業の数が減っていくのではないかと懸念している。 昨今の暑さが厳しいので、子どもたちの健康面が心配。 逆上がりができない子が多いという印象だが、子どもたちの体力低下を心配している。 体力や技能をつけるとしても、時間的な制約があるため徹底的に練習させることができ

			・栄養教諭による食育・栄養指導をおこなう。 ・「家での7つの約束」の再啓発による規律ある生活習慣の確立をめざす。	・児童の日常の様子 ・病院搬送件数の確認 ・生活アンケートの実施	状態について協議 病院搬送件数の前年度比較 生活アンケートの比較	年度末	○	・栄養教諭による食育の指導については、食育の年間計画に沿って、「家での7つの約束」との関連をふまえて、実行することが出来ている。 ・生活習慣アンケートについては、今年度は1学期に実施し、児童の実態把握に活用することができた。	○	体育の授業中の怪我が減少している。 栄養教諭による食育の授業も定期的に行われ、児童の実態に応じた指導をすることができた。また2学期に実施した2回目の生活習慣アンケートから、児童の朝食に対する意識、知識の向上が見られた。	○	ないので、技能の定着には課題があると感じている。 例えば鉄棒などは、「鉄棒ビンゴ」などの学習カードの活用で、子どもたちの意欲が喚起できるのであれば、継続して活用してほしい。 昨今の家庭環境の変化もあり、児童の家での過ごし方が変わった。昔なら、遊びなどから自然と体力がついていたがその部分は昔とは変わってきていると感じる。学校での指導の難しさは感じるが、今後もぜひがんばってほしい。 朝ごはんの喫食率も含めて、家庭状況の複雑な家庭の児童を心配する。
子ども理解	特別支援	・個に応じた支援体制づくりを行う。	・通常の学級、通級指導教室、支援学級が連携した組織的な指導体制の充実をはかる。	・指導体制の連携確認	状態についての協議	年度末	○	担当者間で必要に応じて、連絡・相談の機会を設けている。また児童や保護者への対応も複数の職員で対応するように努めている。	○	担当者間で連携をとりながら、支援体制づくりを進めていくことができた。また、子ども相談委員会の場で、職員全員で情報共有・共通理解をしていくことで、スムーズに初期対応することができた。教育相談も2月末時点で20件となり、保護者と相談していきながら児童一人ひとりに合わせた学びの場の提供や支援を行っていくことができた。	○	コーディネーターの先生は大変だと思うのががんばってくれていると感じる。 知的な支援だけではなく、対人関係や社会性の支援も必要なことが多く、学校の支援の幅広さを感じている。 支援学級の児童と通常の学級の児童とが一緒に過ごしていることで、お互いに理解しながら成長していっていると感じている。
		・子ども相談委員会（校内委員会）を開催し、通常の学級や通級指導教室、支援学級、家庭での支援方針や支援方法、役割分担について、検討を行う。		・児童に対しての効果的な支援	状態についての協議	年度末	○	全職員が集まる機会に、子ども相談委員会を行い、支援を要する児童を中心に共通理解を図っている。教育相談が2学期末現在で17件あり、どのような支援が必要なのか検討しながら進めている。	○			

校長より（年度末）

令和6年度の重点目標である以下の3点については一定達成したと考えていますが、学校関係者評価者からいただいたご意見にもあるように、今後の継続した様々な取り組みに加えて、時代の変化に対応できる学校運営を今後も心掛けていく必要があると考えています。

- ・「子どもが自ら考え、学びを深め合う授業づくり」については、ペアや班での話し合いを積極的に取り入れ、自分の考えを伝える機会を増やし、児童一人ひとりが積極的に授業に参加することができた。
- ・「人とつながる優しい北っ子を育てよう」については、やさしさみつけ月間を行うことによって、他の児童のやさしさに目を向けることができた。
- ・「運動を楽しむことができる児童を育てよう」については、休み時間には男女問わずたくさんの児童が外で遊んだり、委員会活動を行うことで、特に低学年児童の外遊びを促すことができた。

学校関係者評価者から（年度末）

子どもたちに幅広くいろいろなことを教えてもらっていると感じている。

学校でのいろいろな取組は、来年度も継続して行ってほしい。時代の変化とともに、学校の在り方についても変化が求められるが、学校としての考えを地域や保護者に明示しながら取り組んでいてほしいと考える。